

令和2年4月7日

授業開始における新型コロナウイルス感染症対策について

金沢科学技術大学校
学校長 清原 邦雄

さて当校では、4月13日（月）【自動車工学科】、5月7日（木）【その他の学科】より令和2年度の授業が開始されますが、授業を行うにあたって新型コロナウイルスによる集団感染の防止のために、十分な警戒を行い、かつその対策に万全を期すため、ガイドラインを示します。

ただし、このガイドラインについては感染拡大が懸念される4月末までのものとし、以後は状況により判断します。

I. 基本的な感染症対策

(1) 感染源を断つ

校内にウイルスを持ち込まないために、発熱（目安 37.5 度以上）等の風邪の症状がみられる場合については、自宅で休養すること。このため毎朝、検温の確認と風邪の症状等の確認を行ってから登校すること

(2) 感染経路を断つ

手洗いや、咳エチケットを徹底すること。（マスクの着用など）

(3) 体の抵抗力を高める

免疫力を高めるために、十分な睡眠、適度な運動やバランスの取れた食事を心がけること

以上のような基本的な対策をとった上で、集団感染のリスクへの対応を行う。

II. 集団感染のリスクへの対応

集団感染が起こりやすい環境は、以下の3つの条件が重なった時が最大となるものと考えられる

- ①換気の悪い密閉空間である
- ②多くの人が密集している
- ③近距離での会話が行われている

まさに学校の教室での授業シーンがこれに該当するが、授業を行う際にはこの3条件が同時に重ならないようにする事が極めて重要と思われる。

(1) 教室内の換気の徹底（窓の開放）

- ・教室等のこまめな換気を実施します
- ・換気回数は毎時2回以上（30分に1回以上、数分間程度、教室の窓を全開にする）
- ・空気の流れを作るため、複数の窓がある場合、二方向の窓を開放する。窓が一方向にしかない場合には、反対側のドアを開放する

(2) 近距離での会話や発声等の際のマスクの使用など

授業においては人の密度を下げる事には限界があり、教育活動の上で近距離での会話や発声などが必要な場面も生ずることが考えられるため、咳エチケットの要領で、教員、学生共々、唾などの飛沫を防ぐようにする。（咳エチケット→*マスクの着用・ティッシュやハンカチで口や鼻を覆う・袖で口や鼻を覆う等）

III. 出席停止等の扱いについて（当面4月末までの取扱い）

学生に発熱等の風邪の症状がみられるときには、自宅で休養すること。この期間の出欠の扱いについては、学生及び保護者の責任に帰すことができない事由による欠席とみなし、欠席時数としてカウントしない。ただし学生はその期間、症状の変化について学校に毎朝連絡をとること

IV. 感染者、濃厚接触者等に対する偏見や差別の防止

感染者、濃厚接触者及びその家族に対する偏見や差別につながるような言動や行為は許されないものであるため、学生間あるいは教員と学生間においてもそのような偏見や差別が行われないようする

V. 学校行事の実施について

先に挙げた集団感染のリスクへの対応を参考に、3つの条件が重なることのないような感染拡大防止対策を基本として、行事の有用性と感染のリスクを考慮した上で、その実施の有無を判断する

地域の感染状況を踏まえ、学校行事における学習活動の特徴に応じて、開催方法の工夫をしたり、延期したりするなどの柔軟な対応を行う

VI. 放課後の学校内での活動について（当面4月末までの取扱い）

放課後の活動は感染のリスクを高める可能性もあるため、期間中については、授業終了以降、学内に残らず、すみやかに帰宅すること

以上